

海の見える学校

令和5年6月19日／発行者：松本 直道（長崎市立畝刈小学校校長）

A Z 教育 ～一人一人の子供を大切にする学校～



運動会開会式の様子

今年の運動会について

令和5年5月27日（日）、初夏のすがすがしい日の中運動会が開催されました。今年の運動会のテーマは「心をひとつに！」です。今年度新型コロナウイルスも少し落ち着いたこともあり、保護者などの観客の入場制限や入替制をなくしました。また、昨年度の応援は紅白2色対抗でしたが、6年生4学級すべてがリーダーシップを取れるように4色対抗としました。さらに、学年縦割りの4色対抗リレーをプログラムに入れました。

応援団長を中心に、各色力いっぱい声を出し、4色リレーも大変盛り上がりました。たくさんの保護者や地域の皆さんの声援のおかげで、子供たちは最後まで精一杯頑張ることができました。各学年の短距離走、表現（ダンス）や団体競技どれも見ごたえがあり、参観していただいた地域の来賓の皆様は、口々に「いい運動会だった」と言っていたいただきました。大会運営も車での送迎の問題など課題は残りますが、多人数の割には特に大きな混乱はなかったように思います。

運動会のテントなどの後始末など、様々な形でお手伝いいただいた育友会役員や保護者の皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。

午前中開催の運動会は、今後どの小学校でもスタンダードとなっていくようです。教職員の「働き方改革」を進める上で、運動会の午前中だけの開催は、かなり大きな意味を持ちます。ただ、量は減らしても質は落とさないようにしていく覚悟です。今後も保護者の皆様方のご意見もうかがいながら、よりよい運動会を築き上げていきます。



運動会の応援



競技の様子



今年のテーマ

畝刈っ子の心をつめる教育週間

6月19日（月）～24日（土）は「畝刈っ子の心をつめる教育週間」です。本校の教育週間のねらいは以下の通りです。

本校の教育環境や教育活動への理解を深めてもらい、さらなる協力と支援をお願いする場とする。また、本校の教育活動を自由に参観できる学校公開日を設け、本校の教育活動への関心や「子供は地域で育てる」という意識を高める。

＜重点5項目＞

- ①「命に関する講話」等を通して、かけがえのない命を大切にする心情を育てる。
- ②家庭・地域、関係機関等と連携して企画運営する。
- ③情報モラルの学びを通して、相手の立場に立った言動を大切にする心情を育む。
- ④話し合いや学びの場を通して「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という意識を育む。
- ⑤「道徳の授業」を全学級公開する。

また、期間中6月24日（土）に予定されている「100人（1000人）パトロールは以下の目的で行います。

子供の健やかな成長を願い、子供の安全を脅かすあらゆるものから、子供を守るとともに平成15年7月1日に長崎市で起こった不幸な事件を二度と起こさない、形骸化させないという気持ちを全市民が持つように、地域で子供の健全育成に関わる全ての団体等と連携し、啓発活動とともにパトロールを行う。

この教育週間の中で私が特に強調したいことは、「言葉」です。相手のことを思いやる「ふわふわ言葉」を多くつかい、相手を傷つける「ちくちく言葉」をなくしていくよう子供たちに話していきます。また、全校児童参加の100人パトロールでは、6年生の子供たちが、地域の中で防犯や子供の見守り、地域の絆を深めるをお願いをするシユプレヒコールを行います。

子供たちは、日々の生活の中で、「死ぬ」「殺す」「消えろ」などの生死にかかわる言葉を低学年であっても簡単に口に出します。また、ゲームやTV・Youtubeなどメディアの中でも、そのような「ちくちく言葉」は散在し、その影響が子供の正しい感覚を麻痺させています。

ご家庭でも兄弟喧嘩などの中で興奮して使ってしまうこともあるでしょう。子供が「ちくちく言葉」を発した時、どのように子供に声をかけていってほしいでしょうか。学校の中でだけ「ちくちく言葉」を使ってはいけないといくら繰り返し指導しても、徹底させることは難しいです。

「自分の考えは言葉となり、言葉は行動に表れ、その行動は習慣となり、その習慣が人格となり、その人格が運命を創る。」（心理学者ウィリアム・ジェームズ）という言葉があります。

まず、「言葉」（考え）を変えることによって、その子の運命も変わってきます。その子の発する言葉を学校だけで変えていくのではなく、家庭や地域とも連携して「ふわふわ言葉」を使うよう指導していくことが大切だと思います。

教育週間の中で学校でも各学級で相手を思いやる「ていねいな言葉遣い」について、しっかり指導していきます。ご家庭でもどうか一緒に取り組んでいただくとともに、子供が日々接しているメディアの中で不適切な言葉をたくさんインプットさせているものはないかご確認ください。

家庭・学校・地域の三者が連携して、子供たちの豊かな言語環境を育てていくこと、温かい挨拶にあふれる地域にすることが、幸せに生きる子供を増やす大きな手だてだと考えています。

教育週間中の多数の来校をお待ちしています。